

# 人の生き方 「設計業 T氏 44才の場合」

株式会社ウエスコ 環境設計部  
部長 徳岡 広昭  
技術士（水道部門）  
E-mail : h-tokuoka@wesco.co.jp



## はじめに

ご紹介いただきました株式会社ウエスコの徳岡です。本日は神鋼パンテック労働組合の30代の皆さん方に対して人生の少しだけ先輩として体験談を話してほしいという依頼があり、このように皆さんの前でお話をするようになった次第です。

なにぶん私も皆さんと同じサラリーマンであり、話をするのが本業ではありませんので聞きづらい話になるかとは思いますが、よろしくお付き合いをお願いします。

さて、今回は私自身のことを20代、30代そして40代の現在と客観的に振り返りご紹介するわけですが、決して自慢話でも手本となるような話でもなく、話を聞いて下さった皆さん方が何か一つでも感じ取っていただければ幸いですと考えています。

具体的な話にはいる前に少し予備知識として私の経歴について説明したいと思います。

私は1954年（昭和29年）鳥取県米子市に生まれ、地元の小中学校を経て1975年（昭和50年）米子工業高等専門学校建築学科を卒業しました。

卒業と同時に社会人となり、その後数回にわたる転職の後、現在の会社に31才で就職し廃棄物処理や下水道処理施設のコンサルタント業務を行っています。

現在44才、岡山に単身赴任中ですが、米子の自宅には妻と一男一女がいます。仕事に対する考え方、転職のこと、単身赴任のこと、そして家族のことなどについて引き続き世代別の話の中で詳しくご紹介したいと思います。

## こう生きてきた「20代」 ...キーワードは「転職」

まず20代を振り返りながら話を進めたいと思います。

最初の就職は、学校を卒業した1975年、20才の時でした。若い頃は誰しも考えるように東京志向が強く、東京に本社のある空調関係などを専門とする大手メーカーに就職しました。残念ながら配属は大阪となったのですが、生まれ育った米子を飛び出し技術者としての第一歩をスタートしました。

しかし、何年か経つうちに今度は逆に米子に戻りたいという地元志向が強まり、その会社を退職し米子に戻り地元の公務員として数年間を送ることになりました。

念願が叶い地元に戻ったものの、公務員はいろいろな面で自分自身に満足できるものではなく、結局、知人の紹介もあって小さな設計会社に再度転職することになりました。

なぜ地元志向となったのか。私は自分が生まれ育った米子の町が大好きで、その米子で一旗

揚げたいと考えていたこと、住まいと働く場所が近いという住職近接が身体にも楽である、友人がたくさんいる、生まれ育った方言（言葉）で話し生活する。こんなことがその理由だと考えています。

私生活の面では地元に戻り今の会社に入る少し前に結婚しました。28才の時でした。当時から夫婦共働きが良いと考えていて妻は現在も米子で幼稚園の先生をしています。

仕事の話に戻りますが、最初の就職から一貫して設計業務に従事してきましたが、大きなトレンドとしてこれからは下水処理の時代が来る、とくに地方では。その当時は下水処理の専門家も現在ほど多くなく、その道のプロになれば将来的に仕事が大きく発展すると考え、徐々に下水処理の世界に入っていったのです。そのような紆余曲折を経て現在の会社、ウエスコにたどり着きました。

こうして20代を振り返ってみると、20代のキーワードは「転職」ではなかったかと思えます。東京志向から地元志向へ、大企業、公務員、小さな設計会社を経て現在の会社へ。数度の転職を行ったわけですが、待遇は転職のたびに悪くなっていったような気がします。ただ、このころはあまり上昇志向がなく、どちらかというところ「やりたいことをやる」という一点に執着し実践していたように思います。

■ 20代でやった仕事 ■

- ・ 風洞実験装置（自動車）
- ・ 人工血液低温倉庫 ・ 空調関係
- ・ クリーンルーム（半導体）
- ・ 恒温恒湿室（博物館）
- ・ 病院（手術室etc.）
- ・ 小中学校防音工事 ・ 基地騒音対策
- ・ 小中学校新築、改築工事
- ・ 建築設備、浄化槽

## こう生きてきた「30代」 ...キーワードは「資格取得」

30代では、現在の会社が当時、下水処理部門を強化していたこともありそのパイオニア的存在として仕事に取り組むことが出来、仕事がおもしろくってたまらないという状態となりました。

毎日遅くまで事務所で仕事をして、その上、家にまで仕事を持ち込み、布団に入ってからも頭の中で図面や仕様書のチェックをしたこともありました。そんな時に、ここが気になるなと思ったところは翌朝起きてからチェックするのですが、やはりミスしていたことを発見することもよくありました。普通は退いてしまうような無理難題ほど燃えて取り組むので周囲の人からは「お前はSMか」と言われたこともあります。自分では下水道をベースとしたスーパーデザイナーを目指し日々の業務に取り組んでいたのです。

30代は自分の目標どおり主に下水道の仕事に取り組んできましたが、それ以外のちょっと変わった仕事として印象に残っているのはスキージャンプ台の工事施工監理業務です。

大山のノーマルヒル（70m級）のジャンプ台の工事施工監理ですが、全く経験が無くどうやってやれば良いのか悩む毎日でした。百聞は一見にしかずと石打丸山、野沢温泉の既設ジャンプ台、工事中の白馬のジャンプ台を見学し、施工された方々の話を聞き、数度の変更設計業務をこなし無事完成できたときには感慨ひとしお



でした。たとえ未知の分野であっても真剣に取り組めば道は開けるといふ点や、優れた設計者と交流を持つことの大切さなど貴重な思い出となっています。

設計一筋で仕事も充実した中で、資格取得ということを考えるようになりました。直接の動機は当社にある資格手当、すなわち資格を取得することにより待遇アップを目指すということでした。

資格というのは数ではなく質であり、決して資格マニアにはならないように気を付けることが大切です。自分にとって将来、一生役立つような資格取得に向けて取り組む必要があると思います。そうした観点から技術士に挑戦することを決意し、37才の時、初挑戦で技術士水道部門に合格することが出来ました。

ここで資格取得に向けた私の方法について少しご紹介しておきましょう。まずは試験勉強を始めるのは早すぎても遅すぎてもダメ、資格にもよりますが、仕事や家庭がある以上、勉強開始は1ヶ月前ぐらいが目処でしょう。しかし、始めたら毎日やるのが重要です。

試験勉強中はタバコや酒をやめたりと、合格まで禁欲される方もいますが、私の場合はストレスがたまるので禁欲は一切しませんでした。疲れたら一度寝て朝早く起きて勉強するなどの工夫もしました。

業務に関わる資格は自分の手がけてきた業務をその都度まとめておく必要があり、一級士といった資格は過去5年間の出題を丸暗記するぐらいはしておくことが必要でしょう。

結果的に資格試験はペーパーテクニックであり、本当の技術力は実務をこなしていく上で修得するものであると私は思います。

30代での私生活の面を少しお話ししたいと思います。先ほどお話ししましたが28才で結婚し、その後、上は女の子、下は男の子の一男一女に恵まれ、35才でマイホームを建てました。

これは建て売り住宅を購入したわけではなく、土地を購入し、施工は知り合いの工務店に



頼みましたが、家の設計と施工監理は自分でを行い、資金計画も含め自分で出来ることは全部自分でやりました。仕事もあるので大変苦労してしんどい思いをしましたが、苦労した甲斐があり出来映えには満足し今でも愛着を持って住むことが出来ています。

話を戻しますが、30代のキーワードは「資格取得」だと思います。今になって考えると資格の取得や個人の技術力のアップは、気力や体力が充実している30代が一番であると痛感します。

40代になると仕事上の責任が増えることにより、新しいことにチャレンジすることが出来にくくなってしまふからです。

言い換えれば、何事にチャレンジするのも30代が最適であり、ここで努力するか否かで40代から先の人生の方向性が決まってくるのではないかと思います。

いずれにしても、資格取得は本気で取る意志のないものは絶対に取れないものであり、よく時間が無いから資格が取れないと言いますが、厳しいかも知れませんがあれは言い訳で実際は絶対に取るという強い意志が無いからだだと思います。

■ 30代でやった仕事 ■

- ・上水道 ・簡易水道
- ・公共下水道管路施設、処理施設
- ・工業用水道 ・コミュニティプラント
- ・農業用集落排水処理施設 ・し尿処理場
- ・ごみ焼却場 ・小学校プール
- ・ジャンプ台（ノーマルヒル）
- ・野球場夜間照明 ・テニスコート夜間照明
- ・街路灯設置 ・総合公園汚水処理施設

## こう生きている「現在」 ...ライフワークは「微生物とギター」

今年の4月からラインの部長となり、これまでの日常業務に加えて組織の全体管理や目標管理といった業務が増え、より厳しいものになり中間管理職のつらさを実感しています。

客先へのアプローチ、情報収集といった技術営業、見積もり、プロポーザル、仕様書作成といった技術事務、そして若手の育成や新入社員などの面接などを日常的にこなしています。

様々な業務の関係でひと月のうち約半分は出張しており、全国のホテルに泊まり歩き夕食はホテルの近くの居酒屋といった生活をしています。そのうちビジネスホテルと居酒屋のコンサルタントになれるのではないかと本気で思うぐらい全国を飛び回っています。

冒頭にもお話ししたとおり現在、岡山に単身赴任中ですが、土日は米子の家族のもとに帰り家族最優先で地域活動へも参加し、植木いじりや庭の草むしりで気分転換を図っています。社外の人と交流を持ち遊ぶことも人間の幅が広がり非常にプラスになります。単身赴任も四年目になりましたが、とにかく土日は家族最優先にしています。

ライン長ともなると、部下の評価をつけることも業務の中に入りますが、人の評価をつけることは非常に難しいことです。短所は見つけやすいが長所を見つけることは難しく、常にガラス張りの個人評価を心がけています。しかし他人を客観的に評価することにより、自分も成長



していると考えています。いずれにしても、部下にやる気を持たせて組織を活性化し成果を上げていくためには、目配り、気配りが重要であり、コミュニケーションを取るためのアルコールなども必要になってきます。

30代は資格と仕事で充実し、4代になったら部下を育て組織をマネジメントする事が必要なのでしょう。その中で私は44才として、現在多くのことに悩み一生懸命に生きている真っ最中なのです。

自分のことを考えると、給料は既に3年前より年俸制になっており、自分で将来がある程度見えてきたので、そろそろ定年後をどうするかということを含めた、中長期的な人生設計をする時期が来たのではないかと考えています。

仕事の他に、私は「自分のライフワークは『微生物とギター』」と公言しています。微生物に関しては何も自分で菌を培養しているわけではなく、学会に所属しており、業界の雑誌を毎月購読して情報を得る、あるいは学会に出席して新しい技術に触れ交流を図るということを実践しています。特に学会に入ることは、個人の情報ネットワークを広げる意味で非常に効果的です。みなさんも自分を刺激し、カルチャーショックを受けるような場所を持つことが大切です。

資格取得もそうですが、チャンスはなかなか自分では作れません。会社や学会、協会等をフル活用し自分が成長しスキルが上がるのが、自分のためだけではなく、まわり回って会社の



ためにもなっているということを良く理解しましょう。

ギターについては演奏することも好きですが、色々なギターをコレクションとして集めています。中には給料の1ヶ月分を越えるようなものもあり、米子の家や岡山の単身赴任先に大切に飾っています。当然、自分でクリーニングや整備したり、手をかければかけるほど愛着がわいてきて、どんどん本数が増える次第で、いっそのこと楽器商にでも転職しようかなと思うほどです。先ほど出張が多いと申しましたが、出張先で地方の楽器屋をまわると思わぬ掘り出し物にあたることもあり、これもまた止められない楽しみのひとつです。

- 40代でやった仕事、やっている仕事■
- ・下水、ゴミプラ、農排など生活排水処理施設
  - ・ごみ浸出水、し尿、ごみ焼却など廃棄物処理施設

## これまでにわかったこと

私がこれまで44年間生きてきて分かったことについてまとめると、おおむね次のようになります。

- ・世の中で一番難しいのは人間関係である。
- ・全ての事象は法則化しておく（経験則、マーフィーの法則etc...）
- ・重複したときは易しいものから片づける。
- ・人生はプロセス（過程 = 家庭）が大切。死に急ぐな。
- ・技術の向上、人間としての伸びには、素直さと好奇心が重要
- ・子供には、英会話、楽器ができることが理想だが、無理強いは不可。
- ・たとえ口約束でも必ず守る。
- ・人を好きになる。誠実な態度。
- ・「NO」は言わない。できないことはない。知恵と時間を使う。
- ・技術力の高さは、問題解決時の能力である。
- ・今必要な知識こそ、本当に必要な知識である。
- ・寸法をモジュール化するように、適正な価格、正常な値を知る。  
( $m^3$ 当たり、ton当たりいくら等)
- ・何をやってきたかではなく、今何ができるかである。
- ・人の嫌がることはしない。



「人生はプロセス（過程 = 家庭）が大切」と語る徳岡氏

- ・「紳士」であること、「紳士」になること。
- ・どんな簡単な試験も勉強しなければ受からない、どんな難しい試験も勉強すれば受かる。
- ・継続は力なり。
- ・念ずれば必ず実現する。



## ま と め

これまでの私の人生を振り返り、みなさん方にアドバイスをするとしたら、数年後の自分の姿を想像しこの案件を何歳までに達成しようという、具体的な中・長期的なビジョンを自分の人生に待つ必要があるということ。そのためには健康であり、愛すべき人やものが重要だということ。また、これをやらせれば一番(に近い)というスキルを持つ必要があり、もしなければそれを身につける努力が必要だということ。イヤなものはイヤであり、いらぬものは物でも情報でも何でも捨ててスカッとすること。仕事の他にも何か打ち込むものを見つけ、社外にも

個人的なネットワークを広げること。このようなことが言えるのではないかと思います。

本日の講演は私の体験にもとづく話であり、必ずしもすべてのみなさんがもっともだと感じられたとは思いませんが、私の話を聞いてそれぞれの方が自分なりに受け止め、何かを感じ、考え、行動を起こすきっかけになって頂ければ良いと思います。どうか後悔しないような充実した30代を過ごして下さい。

本日は最後まで聞いて下さりありがとうございました。

以上

添付資料 - 1 所属団体および資格取得（取得順）

	所属団体		資格取得（取得順）	
1	日本水環境学会	1	二級管工事施工管理技士	20代
2	空気調和衛生工学会	2	消防設備士	
3	浄化槽研究会	3	第3種冷凍機械責任者（高圧ガス）	
4	広島県技術士センター会	4	下水道第二種検定	
5	廃棄物コンサルタント協会	5	下水道第一種検定	
	（新世代廃棄物処理・資源化システム専門委員会）	6	1級土木施工管理技士	30代
		7	技術士補（水道部門）	
		8	1級管工事施工管理技士	
		9	浄化槽設備士	
		10	1級建築工事施工管理技士	
		11	農業集落排水計画設計士	
		12	シビルコンサルティングマネージャー	
		13	技術士（水道部門）	
		14	下水道処理施設管理技士	40代
		15	し尿処理技術管理者	
		16	最終処分場技術管理者	

添付資料 - 2 毎月購読雑誌(1)と(2)

毎月購読雑誌(1)		
	仕事関係	キーワード
1	用水と廃水	(上水・下水)
2	水処理技術	(下廃水)
3	水環境学会誌	(微生物、環境)
4	空衛学会誌	(建築設備)
5	月刊浄化槽	(浄化槽)
6	月刊下水道	(推進工法、水処理、汚泥処理)
7	日本下水道協会誌	(下水一般、下水経営)
8	都市と廃棄物	(廃棄物)
9	生活と環境	(廃棄物)
10	月間廃棄物	(廃棄物)
11	廃棄物学会誌	(廃棄物)
12	環境施設	(し尿、ごみ)
13	都市清掃	(ごみ)
14	クリーンジャパン	(RDF、ごみ)

毎月購読雑誌(2)		
	趣味関係	キーワード
1	GUITAR MAGAZINE	(ギター)
2	PLAYER	(ギター)
3	MEN'S EX	(服装)
4	BEGIN	(時計、小物)
5	GAIHER	(服装)
6	東京人	(おたく)
7	散歩の達人	(地図、食べ物)
8	その他	(ここに特に記せないもの)



とくおが ひろあき  
徳岡 広昭プロフィール

本籍地：鳥取県米子市  
 現住所：岡山県岡山市  
 年齢：S 29 .12 29生まれ(44才)  
 職業：建設コンサルタント(下水道、廃棄物施設の計画・設計・施工監理等)  
 最終学歴：米子工業高等専門学校 建築学科  
 (S 50 .3 卒業)